

知的障害特別支援学級 算数科学習指導案

題材名：「買い物しよう！」

指導者 教諭 渡邊 圭子

- | | | | |
|---|---|---|--------------------------------|
| 1 | 日 | 時 | 令和2年10月15日(木) 5校時 |
| 2 | 場 | 所 | 知的障害特別支援学級教室(たんぼぼ学級) |
| 3 | 学 | 年 | 第4学年 1名 第5学年 3名 計4名 |
| 4 | 単 | 元 | 名 4年A児・5年B児「式と計算の順じょ」(小学算数4年上) |
- (題材につながる単元) 5年C児「割合」(小学算数5年下)
5年D児「式と計算」(小学算数3年下)

単元について A児・B児 (第4学年)「式と計算の順じょ」

○単元観

本単元は、学習指導要領、第4学年の2内容A「数と計算」(6)(7)に示された指導事項の内、四則混合式の理解のために設定された単元である。

内容A「数と計算」(6)

(6)数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四則の混合した式や $()$ を用いた式について理解し、正しく計算すること。

(イ) 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

(ウ) 数量を \square 、 \triangle などを用いて表し、その関係を式に表したり、 \square 、 \triangle などに数を当てはめて調べたりすること。

イ 次のような思考力、判断力を身に付けること。

(ア) 問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。

内容A「数と計算」(7)

(7)計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。

イ 次のような思考力、判断力を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。

四則計算については、全学年までに、式に表したり、式をよみとったりすることを指導してきている。第4学年では、これらの学習をもとに、やや複雑な数量関係を取り上げていく。本単元の学習は、今後、小数や分数への適用、および、図形の公式、割合、 \square や \triangle を使った式、関数の式へと発展していく。

・本単元で働かせる数学的な見方・考え方

具体的な数量の関係を一般化してことばの式をつくり、 $()$ を使えば2つ以上の数をひとまとまりとみて1つの式に表すことができることに気付かせることが大切である。その際、数量の関係を見つけ出し、公式を創り上げていく過程を重視する。

・1つの式にかくことと計算の順序

複雑な数量関係の場合、一般的にはいくつかの計算で処理していくことになるが、ここでは、四則の混合した式や $()$ を使った式で1つの式に表させるようにする。なお、 $()$ を使った式では、かけ算やわり算を先に計算することから、乗除計算の $()$ を省略して表すことを知らせる。

また、式に表すことと連動して、四則の混合した計算の順序を次のように整理して理解させるようにする。

- ・ () があるときは, () の中を先に計算する。
- ・ +, - と ×, ÷ を先に計算する。

- ・ 計算の間の関係

前学年までに, 加法と減法, 乗法と除法の計算の間の関係を, 思考法問題の中で具体的な場面に即して学習してきている。ここでは, 2つの式の関係を図を使って整理させ, 理解の定着を図るものである。

- ・ 式のみ方

ここでの式のみ方とは, 式にかくのとは逆に, 式をみてその式の表す数量の関係を, 図を使って表すことをねらいとしている。単に式と図を結びつけるだけでなく, 式のみ方を筋道立てて説明できるようにし, 式の意味理解を深めるようにする。

児童観

A児

- ◇ 四則計算を8割程度正しくすることができる。
- ◇ 九九を正しく言うことができる。
- ◇ 加減乗除が用いられた場面を, 8割程度正しく式に表すことができる。
- ◆ 繰り下がりのあるひき算は, 指を使って計算している。
- ◆ 問題を写し間違えることが, 度々ある。
- ◆ わり算の意味理解が十分でないため, わる数よりあまりの方が大きくなっても気付かないことがある。

B児

- ◇ 四則計算を9割程度正しくすることができる。
- ◇ 九九を正しく言うことができる。
- ◆ 暗算は, 難しい。(2けた×1けた以上)
- ◆ 問題文の意味を理解し, 立式することが難しい。
- ◆ 計算に時間がかかる。

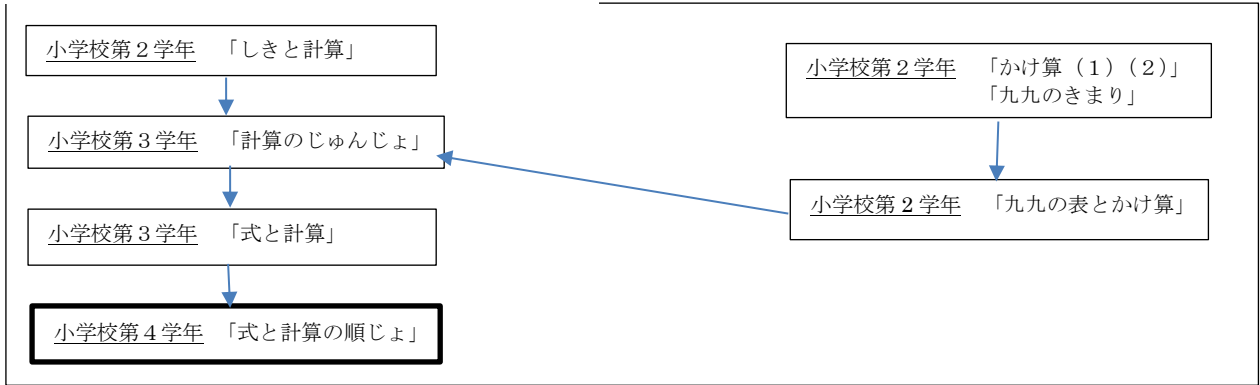
指導観

指導に当たっては, 児童が主体的に学習の取り組めるような場面を設定する。

そこで, 以下のように指導していく。

- ① 主体的に学習するために, この学習をする目標を, 買い物の仕方を学び, 自分達のお楽しみ会をするための学習であることを知らせる。
- ② 問題場面を把握させるため, 絵を使うなど, 問題提示の仕方を工夫する。
- ③ 第3学年までに学習した計算のきまりを整理し, □, ○, △を使ってまとめ, 掲示する。
- ④ 具体物を準備しておき, 自力解決の助けにする。
- ⑤ $25 \times 4 = 100$ と見たり, $99 = 100 - 1$ と見たり, 数を分解したり合成したりして多面的に見ることができるようにヒントカードを準備しておく。
- ⑥ コミュニケーション能力を向上させるため, 上手な聞き方と話し方を確認する
- ⑦ 特にA児については, 問題の写し間違いがないか, 式を書いた後に問題を再度読ませるなどして, 確認をする。また, I児については, ノートの端に筆算を書いていいことを伝え, 安心感をもって授業に臨めるようにする。また, 計算に時間がかかる場合には, 電卓を使用してもよいことを伝える。

○学習内容の関連（単元の系統性） 4年



単元の目標

○()のある式や四則の混じった式について、計算の順序を理解し、いろいろな式の意味や計算のしかたを考えたり説明したりすることを通して、式と計算のきまりについての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算することができる。 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算を簡単に行うことを考えている。 式をよみ、具体的な場面や思考の筋道を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 式の扱いに関心をもち、()を使って1つの式に表したり、具体的に即して式をよみとろうとしたりする。

指導と評価の計画

A児・B児（全11時間＝8時間＋3時間）

次	時	目標	学習活動	知	思	態	評価
1次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○生活場面を式に表すことで、単元の課題をつかむ。 ○ことばの式をもとに、()を使って1つの式に表したり、その計算の順序を考えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・$120+90\times 3$のような場面による計算の順序についての動機づけ ・式の表し方と計算の順序 	○		◎	(態度)四則混合式の計算の順序に関心をもち、()の使い方などを身につけようとしている 《観察・発言》 (知技)3要素2段階の問題を、()を使って1つの式に

						表し、計算することができる。《ノート》
2	○四則混合の計算を1つの式に表したとき、乗除を先に計算することや乗除の()は省いてよいことを理解する。	・四則混合式での乗除先行を考える	◎			(知技)四則混合の式では乗除を先に計算することを理解している。《ノート》
3	○四則混合の式から計算の順序をとらえ、正しく計算することができる。	・四則混合式の計算の順序としまりのまとめ		◎	○	(思判表)四則混合式の計算の順序を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)式と計算の順序を理解している。《ノート》
4	○まとめて考える考えと別々に考える考えを統合して、分配法則のしまりに気づくことができる。	・分配法則を中心とした整数の計算のしまりのまとめ		◎	○	(態度)()を使ったたり乗除先行をもとにしたたりして、いろいろな式を立てようとしている。《ノート・観察》 (知技)()を使った計算のしまりを理解し、交換、結合、分配

						の3つの計算法則について理解している。《観察・発言》
5	○交換，結合，分配法則などの計算のきまりを活用し，工夫して計算することができる。	・交換法則，結合法則，分配法則を使った計算の工夫		◎	○	(思判表)計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)計算のきまりをいかして，工夫して計算することができる。《ノート》
6	○いろいろな式の表す意味を図と結びつけて考え，そう考えた理由を図を使って説明することができる。	・式のよみ		◎		(思判表)数や演算に着目し，式の表す意味を具体的に即して考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
7	○乗法と除法，加法と減法の相互関係をとらえて，計算に利用することができる。	・加減，乗除の相互関係 (□を使った式)			○	(態度)演算の関係に着目し，□を使った式の□を求める計算の仕方を考えようとしている。

				◎		《観察・発言》 (知技)加法と減法, 乗法と除法の関係を理解している。 《ノート》	
	8	○学習内容の理解を確認する。					
2次	9	<ul style="list-style-type: none"> ・加法を使って, 買う物の量を求める。 ・お客さんと店員としての買い物の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活かして, 買い物をする。 		◎	(態度)() を使ったり乗除先行をもとにしたりして, いろいろな式を立てようとしている。 《ノート・観察》 (思判表)計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。 《ノート・発言》	

<p>10 (本時)</p>	<p>・身の回りから，加法で求められる場面を見つける。 ・お客さんの立場で，買い物の流れを理解する。</p>	<p>・学んだことを活かして，買い物をする。「わくわくショップでお買い物をしよう！①」</p>	<p>◎</p>	<p>○ (態度)() を使ったり乗除先行をもとにししたりして，いろいろな式を立てようとしている。 《ノート・観察》 (思判表)計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。 《ノート・発言》</p>
<p>11</p>	<p>・身の回りから，加法で求められる場面を見つける。 ・お客さんの立場で，買い物の流れを理解する。</p>	<p>・学んだことを活かして，買い物をする。「わくわくショップでお買い物をしよう！②」</p>	<p>◎</p>	<p>○ (態度)() を使ったり乗除先行をもとにししたりして，いろいろな式を立てようとしている。 《ノート・観察》 (思判表)計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。 《ノート・発言》</p>

パフォーマンス課題に対するルーブリック評価

1	2	3	4
<ul style="list-style-type: none"> ・()を使ったり乗除先行をもとにしたりして、いろいろな式を立てようとしていない。 ・計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・()を使ったり乗除先行をもとにしたりして、いろいろな式を立てようとしている。 ・計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・()を使ったり乗除先行をもとにしたりして、いろいろな式を立て、解き方の工夫をしている。 ・理由を説明して、計算の工夫を正しく発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・()を使ったり乗除先行をもとにしたりして、いろいろな式を立て、解き方の工夫をしている。 ・理由を説明して、計算の工夫を正しく発表することができる。 ・友達の説明が足りないところや不十分なところを質問している。

単元について C 児 (第 5 学年) 「割合」

○単元観

本単元は、学習指導要領、第 5 学年の 2 内容 C 「変化と関係」(3) に示された指導事項のために設定された単元である。

内容 C 「変化と関係」(3)

(3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量との関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。

(イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。

イ 次のような思考力、表現力等を身に付けること。

(ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

内容の取扱い

(4) 内容の「C 変化と関係」の(3)のアの(イ)については、歩合の表し方について触れるものとする。

本単元では、小数倍の見方を基本としつつ、全体と部分、部分と部分の関係も取り入れて割合という用語で説明できるようにするとともに、百分率での表現や割合が増減する場合の問題なども扱うことで、その意味の理解を一層深めるようにしている。

・本単元で働かせる数学的な見方・考え方

二つの数量の関係に着目し、問題の条件や割合の求め方を基に、何を基準量とし、何を比較量とするかなどを筋道立てて考える。また、全体と部分の関係、部分と部分の関係は、テープ図や数直線などの図、式などを用いて、明瞭、的確に表すことができる。図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図で表したり、図や式の意味を言葉で説明したりすることが大切である。

・割合の 3 つの用法

割合の計算には、もとにする量 B に対して、くらべる量 A の割合を p とすると、次の 3 つの用法がある。

第 1 用法… A と B を知って、 $A \div B$ で p を求める計算

第 2 用法… B と p を知って、 $B \times p$ で A を求める計算

第3用法…Aとpを知って、 $A \div p$ でBを求める計算

既習ではあるが、まずは、このことが基本となるので、これを確認してから百分率の学習へと移行するようにしている。

・百分率

百分率は、基準量を1として割合の見方と対応させて、基準量を100としたときの割合の表し方としてとらえさせるようにする。そして、小数で表していた割合を整数で表すとわかりやすいという百分率のよさに気付くようにすることが大切である。

児童観

C児

◇九九は正しく覚えることができている。

◇四則計算は概ね正しくすることができる。

◆繰り下がりのあるひき算は、指を使って計算している。

◆わり算は7割程度正しくできるが、数が大きくなると商の見当に時間がかかったり、商よりあまりの方が大きくなっても気付かずに割り進めたりすることがある。

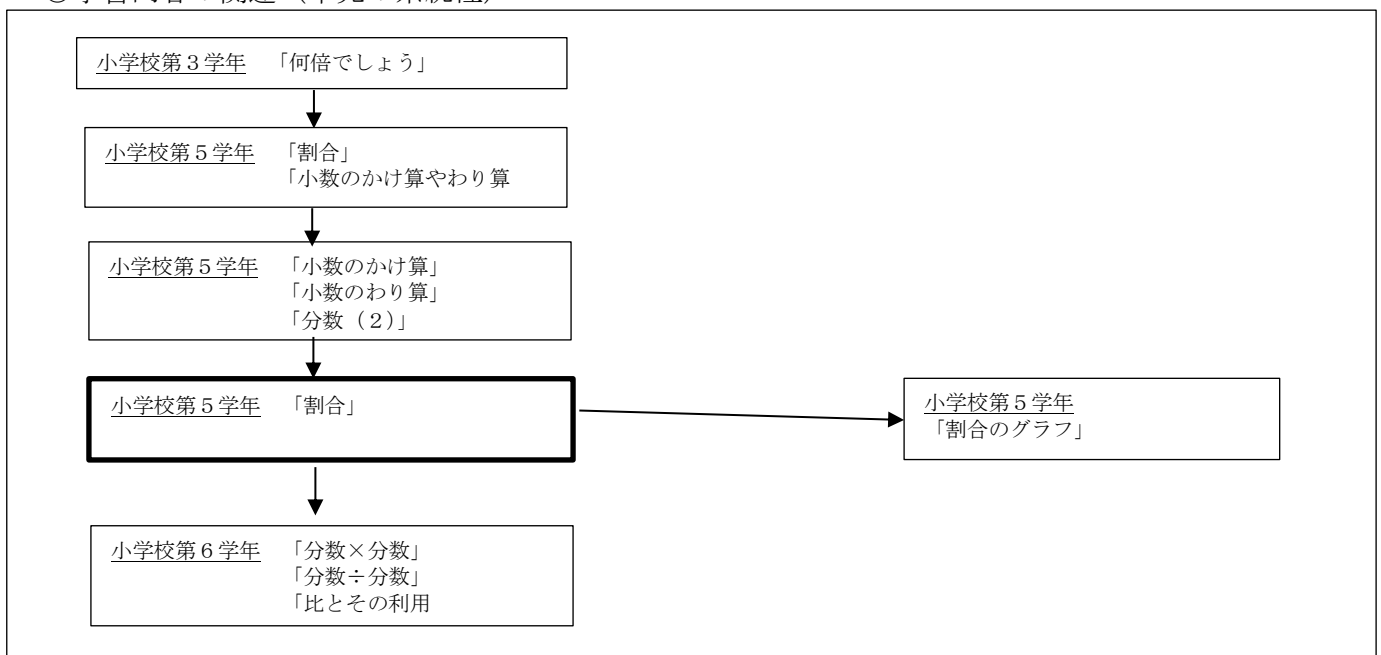
◆問題文を読んで、多様に思考することは難しい。

指導観

指導にあたっては、以下のことに重点をおいて指導する。

- ① 比較量（比べられる量）、基準量（もとにする量）、割合の意味を確実に理解させ、問題文から比較量と基準量を明確に捉えられるようにしたい。そのために、文章表現に注目させ、キーワードを見極めさせるようにする。また2量の関係を読み取らせ、数直線に表し演算決定の手助けにさせる。
- ② 割合を百分率や歩合で表すことの良さに気づかせたい。そのために、日常生活の中から百分率や歩合が用いられる事象を探す活動を取り入れ、数多く存在すること、つまり有効だということに気づかせる。
- ③ 主体的に学習するために、この学習をする目標を、買い物の仕方を学び、自分達のお楽しみ会をするための学習であることを伝える。
- ④ コミュニケーション能力を向上させるため、上手な聞き方と話し方を確認する。

○学習内容の関連（単元の系統性）



単元の目標

○割合について、その意味や百分率などの表し方を理解し、割合を使った問題や割合が増加する問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・割合の意味と表し方を理解し、百分率などを用いて数量の関係を正しくとらえて計算処理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・割合を用いて、数量の関係を考えたり、比較したりすることができる。また、割合の和や差、積を考えて問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・割合で考えたり比較したりすることのよさを知り、これを用いて数量の関係を判断しようとする。

指導と評価の計画

C 児 (全 1 2 時間 = 9 時間 + 3 時間)

次	時	目標	学習活動	知	思	態	評価
1 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○定員と比べて希望者が多いのはどれかを考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○割合の意味について理解し、割合を求めことができる。 ・定員をもとにして希望者を比べることによる学習の動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・割合の意味、割合を求める問題 (第 1 用法) 《割合》 	○		◎	(態度)希望者が定員の何倍になっているかに着目して、比べようとしている。《発言・観察》 (知技)割合の意味について理解し、割合を求めたり割合で比較したりすることができる。《発言・ノート》
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○全体と部分、部分と部分という関係をとらえ、割合を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に対する部分の割合、部分に対する部分の割合 (第 1 用法) 	◎		○	(思判表)図を使って考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合を求めることができる。

						《観察・ノート》
3	○全体と部分という関係をとらえ、基準量と割合から比較量を求めることができる。	・比較量を求める問題（第2用法）	◎		○	(思判表)図を使って考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)比較量を求めることができる。《観察・ノート》
4	○全体と部分という関係をとらえ、比較量と割合から基準量を求めることができる。	・基準量を求める問題（第3用法） ・コラム「文と図と式」	◎		○	(思判表)図を使って考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)基準量を求めることができる。《観察・ノート》
5	○百分率について知り、百分率と小数倍との関係について理解する。 ○割合を求め、百分率で表すことができる。	・百分率の意味、小数と百分率の関係 《百分率、%、パーセント》	◎			(知技)百分率の意味を理解している。《発言・ノート》 (知技)百分率で割合を求めることができる。《ノート》
6	○百分率を使った問題で、基準量や比較量を求めることができる。	・百分率を使った問題	◎			(知技)百分率を小数倍に置き換えて基準量や比較量を求めることができる。《観察・ノート》
7	○百分率の増減が示された問題で、比較量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題（第2用法）			○	(態度)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとし

				◎			て。《観察・ノート》 (知技)割合の和や差を考えて、比較量を求めることができる。《ノート》
	8	○百分率の増減が示された問題で、基準量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題（第3用法） ・コラム「消費税」		◎		(思判表)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合の和や差を考えて、基準量を求めることができる。《ノート》
	9	○学習内容の理解を確認する。					
2次	10	・割合を使って、買う物の量を求める。 ・お客さんと店員としての買い物の仕方を知る。	・学んだことを活かして、買い物をする。			◎	(態度)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとして。《観察・ノート》 (思判表)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

<p>11 (本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから、割合で求められる場面を見つける。 ・お客さんの立場で、買い物の流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活かして、買い物をする。「わくわくショップでお買い物をしよう！①」 	<p>◎</p>	<p>○ (態度)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとしている。《観察・ノート》</p> <p>(思判表)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》</p>
<p>12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから、割合で求められる場面を見つける。 ・お客さんの立場で、買い物の流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活かして、買い物をする。「わくわくショップでお買い物をしよう！②」 	<p>◎</p>	<p>○ (態度)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとして。《観察・ノート》</p> <p>(思判表)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》</p>

パフォーマンス課題に対するルーブリック評価

1	2	3	4
<ul style="list-style-type: none"> 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとしていない。 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとしている。 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとしている。 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考え、正しく説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとしている。 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考え、正しく説明することができる。 友達の説明が足りないところや不十分なところを質問している。

単元について D児 (第3学年)「式と計算」

○単元観

本単元は、学習指導要領、第3学年2内容A「数と計算」(3)に示された指導事項のうち、乗法に関して成り立つ性質の中の分配法則について理解させるために設定されたものである。また、分配法則の指導に先立って、乗法の順思考と加減の順思考を組み合わせた問題で「まとまりを考えて」解く指導法を導入する指導過程から単元を構成し、問題場面を日常生活と結びつける。

内容A「数と計算」(3)

乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ウ) 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。

(内容の取扱い)

(4) 内容の「A数と計算」(3)のアの(ウ)については、交換法則、結合法則、分配法則を取り扱うものとする。

これまでに加減の変量に目をつけ、まとめて考えることができることを学習してきている。また、乗法の変量に目をつけ、何倍かを考えて解くことができることも学習してきている。これらの学習を通じ、本単元では、「まとまりを考える」思考法で、同じ数量に目をつけてまとまりを考えて解くことを学習したり、分配法則について理解したりしていく。

具体的な場面に照らし合わせて、問題解決に取り組み、第1時では、「べつべつに考える」方法と「1組にしてまとまりを考える」方法の2通りの思考法を学習する。さらに、第2時の「計算のきまり」の学習では、第1時の学習を踏まえて、分配法則のきまりについて考えたり、式に表したりできるようにする。

・本単元で働かせる数学的な見方・考え方

乗法の交換法則、結合法則、分配法則について、幾つかの場面について具体的な数で計算して法則を見だし、このような計算の工夫を通して、問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする態度や多面的に考えようとする態度が育成されるようにする。

・1つの式に表す

第2時では、鉛筆とキャップの合計の代金を求める問題を通して、「べつべつに」求める方法と「1組にして」求める方法を、式に表すことができるようにする。その際、まず2つの式 $60+20=80$ $80 \times 5=400$ や3つの式 $60 \times 5=300$ $20 \times 5=100$ $300+100=400$ に表す活動を示した上で、() を使う既習事項を想起させながら、これを1つの式に表すことを考えさせる。

これらの数学的活動によって、どちらの式も答えが同じになることから、分配法則が成り立つということを理解させることが大切である。

$$(60+20) \times 5 = (60 \times 5) + (20 \times 5)$$

児童観

D児

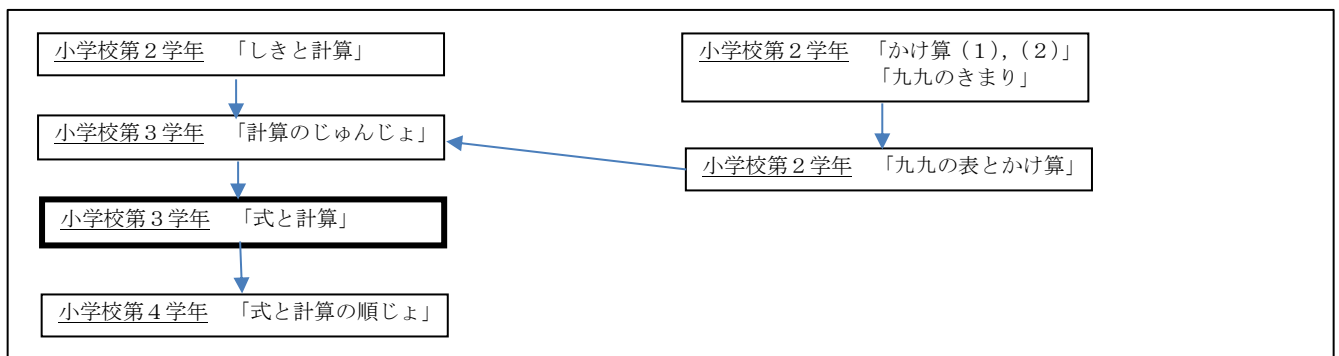
- ◇乗法九九の計算が95%以上できる。
- ◇(2位数) × (1位数)の繰り上がりのあるかけ算は、95%以上正確に計算することができる。
- ◆長い文章問題は、意味が分からなくなり、自分で解くことは難しい。
- ◆乗法がどんな場面で用いられるかを考え、乗法の意味について十分理解できていない。

指導観

指導にあたっては、「まとまりを考える」思考法を学習した上で、分配法則のきまりを理解し、そのきまりにしたがって計算することができるようにしていく。

- ①主体的に学習するために、この学習をする目標を、買い物の仕方を学び、自分達のお楽しみ会をするための練習であることを知らせる。
- ②問題場面を把握させるため、文章だけでなく、絵を使うなど、問題提示の仕方を工夫する。
- ③図やカードを用いて、自分の考えを説明するような活動を取り入れる。
- ④具体物を準備しておき、自力解決の助けにする。
- ⑤コミュニケーション能力を向上させるため、上手な聞き方と話し方を確認する。

○学習内容の関連 (単元の系統性)



単元の目標・評価規準

○加減と乗法の混じった式について、その計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分配法則について理解するとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・加減と乗法を組み合わせた4要素の問題の場面で、1組にまとめる考え方について知る。 ・分配法則の意味と計算の順序を理解し、それにしたがって計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加減と乗法を組み合わせた4要素の問題の場面で、別々に求める考え方と1組にまとめる考え方の2通りで解くことができる。 ・分配法則を用いた式の表し方について説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分配法則に関心を持ち、進んで活用しようとする。

指導と評価の計画

D児（全5時間＝2時間＋3時間）

次	時	目標	学習活動	知	思	態	評価
1 次	1	○ $a \times c \pm b \times c$ の場面で、別々に考えて解く方法とまとまりを考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。	・ $a \times c \pm b \times c$ の場面で、別々に考えたりまとまりを考えたりして解く問題	◎		○	(思判表)順に考えたり、まとめて考えたりしている。《発言・ノート》 (知技)2通りの考え方を理解している。《観察・ノート》
	2	○具体的な場面に照らし合わせて考え、分配法則のきまりについて理解したり、式に表したりすることができる。	・ () を使った加法と乗法が混じった式の表し方 ・ 分配法則 $a \times c + b \times c = (a + b) \times c$			◎	(態度)式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしている。《観察》 (思判表)() を使って式に表すよさに気づいている。《観察・発言》
2 次	3	・ かけ算を使って、買う物の量を求める。 ・ お客さんと店員としての買い物の仕方を知る。	・ 学んだことを活かして、買い物をする。			○	(態度)式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしている。《観察》 (思判表)順に考えたり、まとめて考えたりしている。《発言・ノート》

4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから、かけ算の筆算で求められる場面を見つける。 ・お客さんと店員両方の立場で、買い物の流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活かして、買い物をする。「わくわくショップでお買い物をしよう！①」 	◎	○ (態度)式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしている。《観察》(思判表)順に考えたり、まとめて考えたりしている。《発言・ノート》
5	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから、かけ算の筆算で求められる場面を見つける。 ・お客さんと店員両方の立場で、買い物の流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活かして、買い物をする。「わくわくショップでお買い物をしよう！②」 	◎	○ (態度)式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしている。《観察》(思判表)順に考えたり、まとめて考えたりしている。《発言・ノート》

パフォーマンス課題に対するルーブリック評価

1	2	3	4
<ul style="list-style-type: none"> ・式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしていない。 ・順に考えたり、まとめて考えたりしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしている。 ・順に考えたり、まとめて考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしている。 ・順に考えたり、まとめて考えたりして、正しく説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の表し方に関心をもち、意欲的にそれを身につけようとしている。 ・順に考えたり、まとめて考えたりして、正しく説明することができる。 ・友達の説明が足りないところや不十分なところを質問している。